

西田友是(にしたともゆき)

東京大学名誉教授、広島修道大学経済科学部教授（ドワンゴCGリサーチ所長 兼）。

昭和48年広島大学工学研究科修了、同年マツダ入社。昭和54年から福山大学電子電気工学科講師、昭和63年から1年間米国Brigham Young大学客員研究員、平成2年から福山大学教授。（平成6年から東京大学理学部非常勤講師を経て）平成10年10月から東京大学大学院理学系研究科情報科学専攻教授。平成11年から新領域創成科学研究科 複雑理工学専攻教授。2013年4月から現職（修道大学教授）、また同年に研究所（UEIリサーチ）を設立し研究所長（研究所は2015年8月から銀座歌舞伎座タワー内のKADOKAWA-DOWANGO社に移管、2016年11月から東大赤門の傍の本郷角川ビルに移動）*1。

研究の特徴；日本におけるコンピュータグラフィクス研究のパイオニアであり、3次元物体のリアルな表現法、照明シミュレーション（種々の光源、相互反射光の計算、天空光）、景観予測、自由曲面の表示法、CGアニメーション、インタラクティブレンダリング等の研究に従事（1970年から35年以上）。CGの基礎的研究としては、3次元物体の隠線消去、隠面消去の方法、また、陰影表示においては、種々の光源に対するシェーディングモデルの開発を行った。特にリアルな画像を表示する手法の代表的技法であるRadiosity法（相互反射を考慮する方法）、半影の処理のパイオニアである。また、雲、空、雪、水などの自然物の表示法の研究を行なっている。ハードウェアを利用した、水、砂状物質、髪の変形を高速描画する方法、画像のみでなく音の生成についても研究している。著書に「3次元コンピュータグラフィクス」（昭晃堂）、「ビジュアルコンピューティング - 3次元CGによる画像生成」など数冊。

学会活動/社会貢献；平成13年から画像電子学会ビジュアルコンピューティング委員会委員長（5年間）、平成18年から情報処理学会GCAD研究会主査、平成21年から画像電子学会会長、国際会議Chair（及び論文Chair）6回、国際会議論文委員50回（SIGGRAPH論文委員5回を含）、国際的学会誌編集委員（米国IEEE学会のTransactions on Visualization and Computer Graphicsの編集委員など）4件など学会委員、また協会理事、会社顧問4件を歴任。

受賞；昭和62年情報処理学会から研究賞受賞（現山下記念研究賞：CG分野で初）、平成17年ACM SIGGRAPHからSteven A. Coons Award受賞（CG分野のノーベル賞、アジア初）*2、平成18年NICOGRAPHからCG-Japan Awardを受賞。平成29年ASIA GRAPHICSからLifetime Achievement Award、日本国から紫綬褒章を受章。画像電子学会、情報処理学会フェロー授与など31件受賞。平成18年画像電子学会において「西田賞」（国内の優れたCG論文に授与）が創設された。

参考；メール；nishita@shudo-u.ac.jp

研究室 [東大時代]； <http://nishitalab.org/user/nis/index.shtml>

Wikipedia； <https://ja.wikipedia.org/wiki/西田友是>

UEIリサーチ； <http://ueiresearch.dwango.co.jp/>

You Tube； <https://www.youtube.com/watch?v=-stsHiuJTHU>

注；*1：東京大学の定年に際し、これまでの西田の研究が絶えるのは損失ということでIT系のベンチャーのUEI社の社長の支援で研究所を設立し、2年半経過後、一部上場のドワンゴ社による支援に移され、2017年12月にドワンゴCGリサーチに改名。ドワンゴ社はニコニコ動画の運営で有名で、老舗の出版社・映画会社のカドカワを配下にしている。

*2：CG分野では米国計算機学会のSIGGRAPHが最も権威ある学会であり、生涯をどうしてCG進展に貢献した人物に2年に1人与えられる賞がS. A. Coons賞である。この分野でのノーベル賞と言われている。西田はアジアでは唯一の受賞者である。